

第2回調査委員会(H24.6.5)における委員からの意見等に対する考え方

区分	質問及び意見	考え方
地盤モデル	○ 深部地盤については内閣府のモデルを使い、浅部地盤は県調査のデータを使うとのことであるが、境界をうまく接合するよう注意してもらいたい。	○ ご意見のとおり対応します。
地盤モデル	○ 長周期地震動については、3次元モデルをきちんと構築しないと全体の評価ができない。3次元モデルを作ることは簡単ではないと思うが、ご検討いただきたい。	○ 国の南海トラフの巨大地震モデル検討会で、今後、長周期地震動について引き続き検討されることになっており、その内容を踏まえて検討します。
地盤モデル	○ 液状化の調査に関して、ボーリングの地下水位は一時的なもので注意が必要である。広域的に調査した地下水位を用いるとよいが、季節変動があるので、一番高い水位をもって検討すべきである。	○ ご意見のとおり対応します。
波源モデル	○ 2003中防モデルでは、瀬戸内海には紀伊水道からしか津波が進入しないようになっているが、豊後水道から進入する想定も考えられるので、その点も検討しないとイケない。	○ 本日の第3回委員会で、南海トラフの発生頻度の高い津波(平均クラス)の波源モデルの設定について、再度ご議論いただくことにしています。
波源モデル	○ 香川県にとっては、安政南海地震程度が平均クラスではないかと考えるがどうか。	
波源モデル	○ 平均クラスはいろいろなパターンがあり、なかなかこれとは決められない。内閣府の検討結果も参考に検討したらどうか。	
波源モデル	○ 平均クラスは、例えば、2003中防モデルの震源域・波源域を用いて新しい地盤モデルを入れて想定する案もあると思う。	
波源モデル	○ 施設防御という点から考えた場合、発生頻度は200年、300年の話にはならない。施設の耐用年数を考えれば、平均クラスは、100年規模程度で考えるのが妥当ではないか。	

区分	質問及び意見	考え方
津波予測	○ 瀬戸内海の津波は高くないものの、一度、瀬戸内海に入ると、出にくいので、通常よりも長い時間の計算を行うようにしてほしい。	○ 今回の内閣府公表における津波の計算時間（再現時間）は最低6時間としていますが、本調査では12時間を基本としています。
被害想定	○ 建物崩壊、液状化、津波、火災などといった複合災害を時系列でイメージできる被害シナリオが必要だと思うのでご検討願いたい。	○ ご意見のとおり対応します。
被害想定	○ 想定時間帯について、まだ暗く寝ている時間帯である真夜中の午前2時頃の発生が一番危険なのではないか。朝5時だと香川に津波が来る頃には明るくなってしまおうだろうか。	○ 想定時間帯については、今回公表された内閣府の被害想定に合わせて「冬・深夜」、「夏・昼12時」、「冬・夕18時」とします。
被害想定	○ 被害想定は、極力想定外の事態をなくすよう、被害が大きく出る場合を考えて検討してもらいたい。	○ 想定時間帯を3種類設定するとともに、「風」についても平均風速と強風時の2種類設定するなど、複数のケースで被害想定を行いません。
被害想定	○ 内閣府においても議論があったが、風速に関する考え方は盛り込むのか。風速は、一定考慮する必要があるのではないかと。 ○ 冬場の風速の大きい時に火災が起きた場合と、夏や秋とでは延焼度が異なると思うので、参考にしてもらいたい。 ○ 冬の夕方6時は、最も出火の危険があり、風速も強い。地域ごとにいろいろな特徴があるので、香川県の特性も踏まえて検討してほしい。	○ 本調査における「風」の想定については、平均風速と強風時の2種類設定することとしています。
その他	○ 防災・減災対策の課題についてであるが、香川県の県民は、地震も少なく、比較的防災意識は低いのではないかとされる。この調査でなくてもいいが、防災意識を高めるための方策を盛り込むことも考えてはどうか。	○ 本調査では、被害想定結果を踏まえ、本県の防災・減災上の問題点及び課題を抽出し、今後取り組むべき対策を提案することとしています。